

令和 7 年度 学校経営計画書

学校番号	45	学 校 名	県立清流館高等学校	校 長 名	山梨 祥子
------	----	-------	-----------	-------	-------

＜教育目標＞

《成長する人》 - 広い視野のもと、主体的に学び、意欲的に努力する生徒を育む

《共生する人》 - 自他を敬い、多様な生き方を認める生徒を育む

《有為の人》 - 高い規範意識を持ち、地域社会に貢献する生徒を育む

1 スクール・ミッション

志埜地区において、2つの学科（普通科・福祉科）を持つ、地域に根差した学校として、基礎基本を大事にした授業、持続可能性や地域の課題に目を向けた探究学習や生徒主体の学校行事を通して、地域に生き、自他を敬い共に暮らし、地域社会に貢献する人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
普通科 (1) 確かな学力を育成します。 (2) 身に付けた知識や技能を活用する思考力・判断力・表現力を育成します。 (3) 地域に貢献し、地域のリーダーとして活躍できる実行力を育成します。 (4) 地域の課題を探究し、その解決に向けて取り組む発想力と行動力を育成します。 (5) 一人一人の人権を尊重し、多様な他者と協働して活躍できる力を育成します。 福祉科 (1) 心身の状況に応じた介護を実践できる生徒を育成します。 (2) 介護現場において、主体的に課題解決に向けた行動ができる生徒を育成します。 (3) 持続可能な共生社会を目指す生徒を育成します。	普通科 (1) 思考力・判断力・表現力を身に付けるために、基礎学力を基盤とした主体的対話的で深い学びが実現する授業を実践します。 (2) 他者と協働して取り組む資質・能力と豊かな人間性の育成を目指して、地域と連携した学習機会の充実を図ります。 (3) 将来の進路に関する基礎的知識・技能を習得するために、選択科目等を体系的に編成し、実践します。 福祉科 (1) 介護技術の基礎・基本を身に付け、心身の状況に応じた介護の実践を目指します。 (2) 現場実習を通して、職業人としての責任感や倫理観を身に付けます。 (3) 地域の福祉活動に参加し、共生社会について学びます。	普通科 (1) 自分と他者を大切にして、個性や長所を伸ばそうと努力する生徒を募集します。 (2) 他者の人格や人権を尊重することができる生徒を募集します。 (3) 常に向上心を持って、何事にも熱心に取り組むことができる生徒を募集します。 (4) 夢や希望を持ち、将来の進路実現に向けて前向きに取り組む生徒を募集します。 (5) ボランティア活動や地域防災など自分の力を社会に役立てたい生徒を募集します。 福祉科 (1) 福祉・介護に関心があり、本校での学びを将来的にその分野で発揮しようと考えている生徒を募集します。 (2) 介護福祉士国家資格取得に意欲的に挑戦しようとする生徒を募集します。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む。
- イ 自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む。
- ウ 社会の一員として貢献する自覚と高い志を持って、自らの進路を切り拓く力を育む。
- エ 教育諸活動に係る生徒への支援体制の充実を図り、「信頼される学校」づくりに努める。
- オ 「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む。
- カ 周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む。
- キ 福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む。
- ク 教職員が信頼し合い、長所を認めて学び合い、互いに職業人としての技量を一層高める。

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む。	(1) 【授業改善、知識の定着】 ・校外研修やオンラインセミナー等への参加 ・「何ができるようになるか」を意識した授業改善 ・成績処理システムの適切な運用 ・アクティブ・ラーニングの実践 ・ICT 機器の効果的活用 ・学びの基礎診断や模試の結果の活用（適切な教育目標の設定、既習事項の確認等） ・教員相互の授業見学を実施する	【教員の授業研修】 ・校外研修やオンラインセミナーに参加する教員 80%以上 ・教員自身が学び続ける姿勢を持つことを自覚する ・年 2 回の授業見学の実施 【知識の定着】 ・「授業の内容がわかる」と答える生徒 80%以上 ・「学ぶ面白さを感じた」と答える生徒 80%以上 ・学びの基礎診断や模試の結果が学年、進路課で活用され、生徒が自己調整力を高める 【授業改善】 ・「授業を通して物事を考える方法や材料を身につけることができた」と答える生徒 80%以上 ・授業等で ICT 機器を効果的に活用する教員 85%以上 ・教員が生徒の興味・関心を高める授業を行う	教務課 情報管理室 研修課 進路課 学年部 教科
		(2) 【観点別学習評価】 ・観点別評価の実践と改善	・教科内で共通理解のもと、観点別評価の実践と改善が行われている	教務課 教科
		(3) 【家庭学習の習慣化】 ・「学びの基礎診断」の結果を踏まえた適切な学習課題の提供 ・学習方法の丁寧なガイド ・ICT 機器の活用による自主学習習慣の確立	・「授業以外の学習を週 5 日以上行う」と答える生徒 60%以上 ・生徒が進路実現や自己目標達成に向けて努力している ・「学習方法を身に付けている」と答える生徒 75%以上 ・「家庭学習等に ICT 機器を活用している」と答える生徒 75%以上	学年部 進路課 教務課
		(4) 【読書による学びの深化、心の成長】 ・図書館利用の促進 ・「読書 MAP」の活用 ・新書等の読書案内	・1 か月間の無読者 30%以下 ・年間を通して読書時間を伸ばすことができる ・生徒「読書 MAP」への読後感の記入 年 5 冊以上 ・読書が人の気持ちを考える、社会のことを知る、知識を得るなどに有用であると答える生徒 75%以上 ・新書をはじめ、自ら興味・関心のある分野の本を読んだ生徒 75%以上	図書課 学年部 教科

		(5) 【学習センター・協働の場としての図書室】	・図書室講座等各種ガイダンスの開催（年 6 回）	図書課
イ	自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む。	(1) 【基本的な生活習慣の徹底】 ・校内での生徒・教職員のあいさつの励行 ・身だしなみ指導 ・SNS 等の継続的指導	・教員も率先して挨拶し、「進んで挨拶ができる」と感じる生徒と教員の回答ギャップ [※] 10%以内 ・「正しい身だしなみ」と感じる生徒と教員の回答ギャップ [※] 30%以内 ・SNS の適切な使用方法が身についている生徒 90%以上	生徒課 学年部
		(2) 【特別活動の活用】 学校行事、生徒会活動、H R 活動への積極的な取組と効果的な運用及び思いやりの心と協調性の育成	・生徒による企画・運営が進んでいる。 ・委員会・係活動が充実している生徒 80%以上	生徒課 学年部
		(3) 【部活動の改善】 持続可能な部活動体制の検討	・部活動が充実している生徒 80%以上 ・部活動改善ロードマップに基づく今後の設置部活動の決定や規約などの見直しがされている。	生徒課
		(4) 【交通安全教育・指導】 自転車安全指導カード指導の徹底	・自転車安全指導カード交付件数年間 100 枚以下	生徒課
		(5) 【健康の保持及び増進】 ・薬学講座実施 年 1 回 ・保健だより発行 10 回～	・生活リズムや食事など健康を維持することを意識している生徒 80%以上 ・治療勧告に対する受診率 75%以上	保健課 学年部
		(6) 【環境整備】 ・丁寧な清掃、教室の整理整頓 ・ごみの減量・分別	・教室等が公共の場として、安全で清潔な環境を整えることができる ・ごみの総量減少。分別されたごみ出しができています	保健課 学年部
		(7) 【豊かな感性の醸成】 ・芸術鑑賞教室を活用した豊かな感性や鑑賞態度の育成	・生徒満足度 80%以上 ・事後アンケートにより効果と課題が共有されている	図書課
ウ	社会の一員として貢献する自覚と高い志を持って、自らの進路を切り拓く力を育む。	(1) 国や地域の課題に関心をもち、解決のために考え、行動できる基礎力の養成	・選管による出前授業や模擬投票等の実施を通して、生徒が具体的に国や地域の課題解決への関わる気持ちを高めることができる	地歴公民科
		(2) 企業、福祉施設、大学等との連携によるキャリア教育の充実と職業観の育成	・生徒向け進路ガイダンス 3 回以上実施 ・生徒・保護者・教員向け進路講座、年 3 回以上実施	進路課 学年部 福祉科

様式第 1 号

		(3) 修学旅行を通して、平和意識を高め、自然や生活文化の違いを知り、集団における個の体験の蓄積	・「平和について意識が高まった」「自然や生活文化の違いへの理解が深まった」「他者を思いやる言動ができた」と回答する生徒 90%以上	2 年部
		(4) 高い目標を持たせる進路指導と進路目標の実現。 適切な進路情報の提供、必要に応じた特別指導（小論文、面接等）の充実	・ 3 年生進路目標の実現の満足度 90%以上 ・ 必要な進路情報を入手するために自ら行動している生徒 80%以上	進路課 学年部
エ	教育諸活動に係る生徒への支援体制の充実を図り、「信頼される学校」づくりに努める。	(1) 地域に信頼される学校づくりに向けた取組の充実	・ スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく、教育活動の円滑な運用を行う ・ 行事等の目的と学校経営計画とのつながりを明確にして共有する	全教職員
		(2) 喫緊の課題に対応した教員研修の実施	・ 教員の多様な経験を生かす職員研修の実施とチームプロジェクトを充実し、生徒や保護者の困り感等の緩和や若手教員のスキルアップに繋げる	研修課
		(3) 相談室を核とした特別支援教育の充実	・ 定例の会議に加え、必要に応じて随時ケース会議を行い迅速な対応態勢を整える。 ・ SC や外部専門機関とのスムーズな接続がとられている ・ 相談室情報連絡会議年 7 回、特別支援委員会年 5 回	相談室 学年部
		(4) 適正かつ効率的な予算執行による教育環境の整備	・ 会計研修実施 年 1 回以上 ・ 適正かつ効果的な予算配分及び計画的な予算執行が行われている	事務室
		(5) 学校危機管理体制の向上及び防災意識の高揚	・ 危機管理マニュアルの活用促進 ・ 校内防災訓練で防災意識が高まった生徒 80%以上 ・ 総合防災訓練又は地域防災訓練の参加生徒 延べ 300 人以上	総務課
		(6) 学校ホームページ、学校公開、地域活動等による清流館高校の魅力発信	・ PTA 広報紙「清流館だより（5 月）」を発行し、魅力を周知している ・ 福祉科広報の充実 ・ 学校公開（年 2 回）参加者の満足度 90%以上 ・ 学校ホームページの充実	総務課 研修課 福祉科
オ	「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む。	(1) SP の時間を通じた自己探究・進路探究の充実	・ 提案や行動に繋がる探究を行う。 ・ 探究を通して志望理由書等の進路資料作成スキルを向上させている ・ 年 1 回以上、中間発表会、探究活動発表会を実施し、年 3	教務課 進路課

様式第 1 号

			- 回以上、校外での発表会に参加する ・県教育委員会「行きたい学校づくり探究推進事業」の志趣地区拠点校として、コンソーシアムの構築及び運営に取り組む	
		(2) 企業、行政、大学等と連携し、地域社会と協働した探究の推進	・焼津の魅力発信プロジェクトとキャリアデザイン講演会の実施 ・大学との連携による企画を実施し、生徒の学びの幅を広げる。	進路課
カ	周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む。	(1) 【他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を育む】 ・年度当初の HR 活動でエンカウンターを実施 ・いじめに関する研修の充実	・悩み事を相談する人が一人でもいると回答する生徒 80%以上 ・相談室と連携して校内でのいじめを撲滅する ・学校いじめ対策組織やガイドラインの周知および点検と見直しが継続的に行われている。	生徒課 相談室
		(2) HR 活動、特別活動、部活動等を通じた異なる他者を尊重する雰囲気づくりの推進	・学校生活が充実していると回答する生徒 80%以上 ・居心地が良いクラスであると回答する生徒 80%以上	生徒課 学年部
キ	福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む。	(1) 福祉教育の充実及び地域と連携した人材育成	・生徒の福祉への関心を高め、自ら課題を発見し、改善につながる提案ができる力を育む ・地域の高齢者施設・障害者施設と連携しながら、介護実習を実施する ・介護実習及び介護技術コンテスト等を通して、技量や意識を高める ・福祉科説明会、福祉科広報物の作成を通して、中学生や地域に福祉科教育への理解を図る	福祉科
		(2) ボランティア活動、社会貢献活動への積極的な取組	・ボランティア、社会貢献活動に参加する生徒 60%以上	生徒課
ク	教職員が信頼し合い、長所を認めて学び合い、互いに職業人としての技量を一層高める。	(1) 業務内容の見直し・改善への取組と業務の円滑な実施のための体制づくりの推進 (2) 教職員の心身の健康を確保する働き方改革の推進 (3) 各種会議の計画的実施と効率的な運営	・各分掌における業務について、優先順位や軽重を再検討し、スリム化に取り組む ・デジタル採点システムを全校で活用し、業務の効率化、除法資産の管理・保護に取り組む。 ・効率的に業務を進め、時間外労働時間を昨年度より削減する ・業務の質と量、かける時間に	全教職員

様式第 1 号

			ついて自ら妥当性を考え、心身の健康を確保し、ウェルビーイングな学校の雰囲気を醸成する ・会議時間短縮のための工夫の促進 ・夏季休暇取得率 100%	
--	--	--	--	--